

ゆめ わらわ 夢 立軍

菅波 茂

今日11日、岡山国際交流センター国際会議場で第3回国際医療貢献フォーラムを岡山県と共催で開催した。足羽憲治副知事のあいさつで開始。最初に日本バンングラデシユ友好病院理事長で、AMD A D Aバンングラデシユ支部長のサーダー・A・ナイーム医師による「これからの医療協力に求めるもの」と題しての基調講演があった。

続いて「アジアの医療水準の実情とこれからの医療協力にもとめられるもの」の事例について、医療機関を代表し、岡山大学医学部心臓血管外科教授の佐野俊二氏と社会福祉法人旭川荘理事の板野美佐子氏が、NGOを

代表して、私とAMD A

社会開発機構理事長の鈴木俊介氏が発表。経営の

立場から、帝人ナカシマ

メディカル代表取締役会

長の中島義雄氏、IHD

協同組合理事長の小林真

弘氏、そして瀬戸健診管

理研究所丸亀健診クリニ

ック院長の麻田ヒデミ氏

が述べた。

また、教育機関を代表

して、岡山県立大学保健

福祉学部准教授の資金栄

氏と同大学特別研究員の

シユレスタジョシ・アル

チャナ氏が発表。その後

「求められる医療協力に

おける産学官連携の可

能性」「金は「金融」

と「国際医療貢献フォー

ラムのプラットフォーム

化の提案」について討議

国際医療貢献と「GPS Pバンク」構想

が行われた。ナイーム医師、佐藤拓史医師、則安俊昭・岡山県医療推進課長らの真摯なコメント。座長を務めた佐野氏の統括コメントに続き、AMD A ボランティアアセンタールの小池彰和氏のあいさつで閉会した。



さまざまな意見が交わされた「第3回国際医療貢献フォーラム」

AMD Aは1984年に設立されてから、継続して国際医療協力に携わってきた。この30年間で国内外に大きな変化がある。①世界の富の東漸によりアジアの国々の経済向上②アジアの国々の医療技術の向上と医療体制の拡充③アジアの国々は医療技術のみならず高齢

を受けたが、350人の骨折患者の手術をネパール人医師たちだけで実施した。彼らの中には、日本の文部科学省奨学金を受けて博士課程留学した教授陣がたぐさんいた。

基調講演をしたナイーム医師も「文科省奨学金で博士号取得後に母国に貢献するのは10%前後。多くは欧米で医師として働く。日本にとっても母国にとっても損失。解決策は帰国後の技術支援の継続と有償資金支援プログラムである」と。彼らが日本で学んだ技術をアジア諸国に移転する時代の到来である。

佐野氏から国際医療貢献フォーラムのプラットフォーム化の提案がされた。目的は、岡山県国際貢献活動推進条例に基づいた、行政、NGO、NPO、教育機関、企業そして公益団体などの相互交流と相互協力の具現化。単独の国際医療貢献に加えて複合体としての国際医療貢献の具現化であり、岡山から全国への発信である。

更に、今やアジアの医療機関は無償支援に加えて有償支援を必要としている。有償支援の仕組みづくりを、金融庁所管のNPOバンクか金融業務を行う営利団体（合同会社あるいは株式会社）のいずれかの法人形態として実現化したい。GPS P（世界平和パートナーシップ）参加団体をパートナーとするバンク構想である。

なお、佐野氏にフィリピンのグシ平和賞が11月25日に授与される予定。ベトナムをはじめ世界の国々に対する医療貢献の実績への評価である。大いに喜びたい。（AMD Aグループ代表）